「事業名：福島社会イノベーション創造事業」

早稲田大学　連携市町村：福島県双葉郡広野町
現地拠点：福島県双葉郡広野町下北迫苗代替22-2広野町文化交流施設　ひろの未来館内

事業のポイント

・「ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ（SI構想）」の具体化を通じて、「復興と廃炉の両立」が可能な地域社会の将来像の構築
・原子力災害からの創造的復興を通じた持続可能な社会を形成する社会イノベーションの創造と災害文化形成モデルの研究開発
・原発事故と原子力災害の教訓を活かした学術文化の新しい「知の拠点」のあり方の研究
・一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的に学びに活かすプラットフォームの構築と「社会イノベーション」の人材育成

人材育成目標

①高大連携による人材地域還流ロールモデル構築（地域の小中学・高校から大学生世代を対象とした教育）
②地域の多様な主体の共創「学びの場」構築（地域の住民・企業人・自治体職員などを対象とした教育）
③地域外学生が福島から学ぶカリキュラム構築（地域外の高校生・大学生世代を主な対象とする教育）

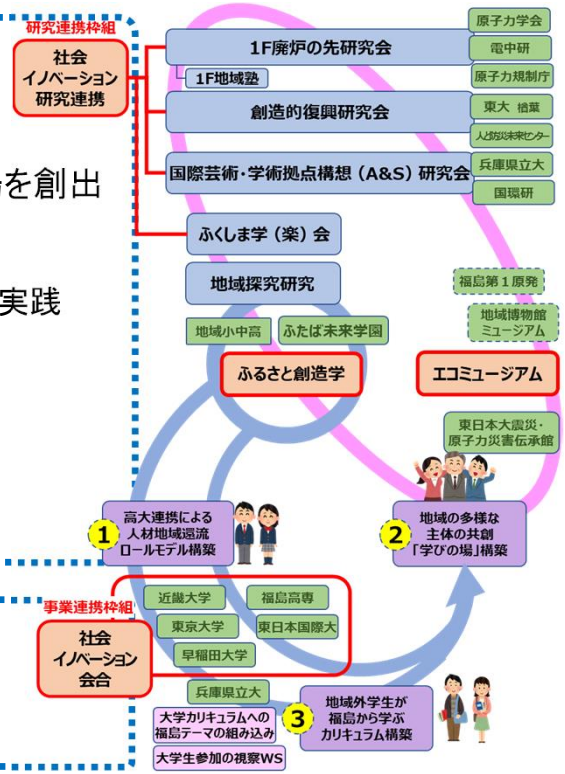
2023年度の活動内容

【SI構想実現に向けた3つの研究会中心の活動】
Ⓐ研究者中心の研究会、Ⓑ地域対話、Ⓒ実証実践（パイロットモデル構築）、Ⓔオープンエンドな対話の場
➡研究成果の共有・議論：ふくしま学（楽）会およびシンポジウム等
➡人材育成：トランスサイエンスを対象とした対話の実践、自分ごと化のプロセスを重視した学びの場を創出

（1）1F廃炉の先研究会
Ⓐ：1F廃炉プロセスと地域社会との関係および1F廃炉の将来像の多様な選択肢について研究調査
ⒷⒸ「1F地域塾」：高校生を中心とする多様な住民と多様な専門家（行政・東電も含め）とによる「対話の場」の実践

（2）創造的復興研究会
Ⓐ：2050年の福島浜通り地域社会像を議論し、その象徴としての1Fの世界遺産（文化遺産）登録をめざす
ⒷⒸ：福島関連授業に参加した大学生の視察を通じた「自分ごと化」のWS、多くの地域対話を実践

（3）ふくしま学（楽）会
Ⓔ：多様な専門家（行政も含め）と多様な市民（住民）による「対話の場」の構築（年2回）
専門知と地域知の出会いを創出



取り組みによって得られる成果

・福島復興における地域再生と社会イノベーション創造モデルの明確化
・ふるさと創生学における多世代・多地域・多分野の共創と社会イノベーション人材育成
・多様な主体の広域連携の構築と帰還困難区域への地域再生モデルの波及